公益財団法人 石川県国際交流協会
Ishikawa Foundation for International Exchange

IFIE PLANET

春号
Vol.74
2024

[アイフィープラネット]

● 発行:公益財団法人 石川県国際交流協会 | 〒920-0853 石川県金沢市本町1丁目5番3号 リファーレ3階
TEL 076-262-5931 FAX 076-263-5931 URL https://www.ifie.or.jp/ Email center@ifie.or.jp

いしかわ オンライン にほんごクラス

※画像は「いろどり生活の日本語」より引用しています。

contents

報告 令和６年能登半島地震における
石川県災害多言語支援センターの活動について・・・1～4
ＩＦＩＥホームページが新しくなりました・・・・・・・・・・・4
いしかわオンラインにほんごクラス・・・・・・・・・・・・5～6
外国人のおにいさん、おねえさんと遊ぼう・・・・・・・・・7～8
国際交流員離任の挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・9～10
ＪＩＣＡ北陸からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・11

■令和６年（2024年）能登半島地震における石川県災害多言語支援センターの活動について

令和６年１月１日に能登地方を震源とする能登半島地震が発生しました。石川県、（公財）石川県国際交流協会（以下、「県協会」）では、石川県災害多言語支援センターを設置し、多言語での情報発信や個別相談対応を行いました。

【これまでの取組報告】

1　石川県災害多言語支援センター（以下、「支援センター」）の概要

設置根拠：石川県地域防災計画
設置目的：日本語が十分に理解できないことにより行政機関が発信する情報を享受できない外国人のために、多言語による災害関連情報の提供やニーズの把握等の支援活動を実施
設置主体：石川県　運営主体：県協会　設置場所：県協会
設置時期：令和６年１月２日～３月31日
協力団体：NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会（以下、「タブマネ」）、NPO 法人YOU-I（以下、「YOU-I」）、東海北陸地域国際化協会連絡協議会（以下、「東海北陸協議会」）、自治体国際化協会

2　支援センターの活動内容

従来、支援センターの活動では、避難所巡回等により外国人のニーズ把握を行うことが主流でしたが、今回の災害では、道路状況が悪く、人命救助等に係る緊急車両の通行が優先され、災害ボランティアを含む一般車両の能登方面への移動自粛が要請されていたこと、また断水等により被災地での自律的活動が困難であったことから、被害が甚大な奥能登地域での支援活動は難しいと判断し、（1）関係者ネットワークを駆使した外国人避難状況の把握、（2）多言語相談窓口等による相談対応、（3）多言語での情報発信　を中心に活動を実施しました。

〈 主な動き 〉

日付	活動内容
1月1日（祝）	県協会HP・SNSで注意喚起情報を発信
1月2日（火）	❶令和６年能登半島地震多言語相談窓口の設置（7言語、のち９言語対応）
〃	❷無料電話通訳サービス（Bridge Multilingual Solutions 社の提供サービス）の案内開始（5言語、のち７言語対応）
1月2日（火）～	❸各種の情報を多言語で情報発信
	〈❶❷❸の周知方法〉 ・県協会HP・SNS、県HP・SNSで情報発信 ・県国際交流課から外国人住民約2,400人（R5年度に実施したアンケート調査時の登録者）にメールで案内 ・奥能登へ向かう職員や支援団体等に情報周知を依頼

1月15日（月）	1.5次避難所（いしかわ総合スポーツセンター）を訪問
1月17日（水）	七尾市・志賀町（富来地区除く）の避難所等を巡回
2月8日（木）	支援センター主催第1回生活相談会開催
2月15日（木）	支援センター主催第２回生活相談会開催
随時	支援センター運営打ち合わせの実施、　出入国在留管理局など他団体主催相談会への協力、　外国人住民の状況聞き取り　等

（1）関係者ネットワークを駆使した外国人避難状況の把握

支援センター内において、被災地で支援を行う行政職員や民間団体関係者等から得た情報を関係者間でファイル共有し、最新状況を把握しました。

（2）多言語相談窓口等による相談対応

YOU-Iの生活相談フォームを活用して、1月２日に令和６年能登半島地震多言語相談窓口（9 言語対応）を開設しました。のちに、東海北陸協議会の協力を得て、母語による電話相談対応（14 言語対応）も追加しました。

また、避難所の巡回や支援者からの聞き取りにより、ニーズ把握を行うとともに、弁護士及び行政書士による外国人のための生活相談会を開催しました。

（3）多言語での情報発信

石川県災害対策本部の発出情報等を多言語化して、県協会HP・SNS、県HP・SNS、外国人住民へのメール、市町や現地支援者を経由したチラシ配布等により、情報発信を行いました。

〇HP等による発信

・各種掲載情報

相談窓口案内、無料電話通訳サービスの案内、避難所開設情報・検索方法、道路通行情報、バス運行情報、安否確認サービスの利用方法、災害義援金受付案内、入浴支援サービスの案内、避難所での生活情報、在留申請の案内、技能実習生向け案内、相談会開催の案内、義援金配分のお知らせ　など

・被災者向けお知らせ「被害にあったみなさんへ」
　災害被害にあった方に最初に知っておいてほしいことを11言語で発信（タブマネ作成）
・「がいこくじんのためのやさしいにほんごじょうほう」
　やさしい日本語で外国人のための災害支援情報をまとめた冊子形式資料を発信（随時更新）

〇外国人住民へのメール連絡
・登録外国人住民にメールで多言語相談窓口や相談会開催案内、義援金申請概要などを案内
〇市町への情報提供
・り災証明書様式や制度周知用資料などを提供

地震にあった人のためのオンラインにほんごクラス

　能登半島地震で大きな被害を受けた能登には、珠洲市日本語教室、輪島日本語教室、さとうみ日本語教室（能登町）、七尾を世界へひらく市民の会日本語教室が活動をしていました。七尾を世界へひらく市民の会の日本語クラスは、地震後、早期に授業を再開しましたが、他の教室では、日常生活を送ることさえ大変な中、授業は行えない状況です。地域の日本語教室は、日本社会で働き暮らす外国人住民にとって、日本語を学ぶだけでなく、仲間と話したり、地域の情報を得たりするための貴重な場になっています。
　IFIEでは、外国人住民の学びを止めないため、また社会と彼らのつながりを絶たないために、

ZOOMを使った「地震にあった人のためのオンラインにほんごクラス」を２月初旬から開始しました。ベトナム、ラオス、インドネシアからの技能実習生が週２回日本語を学んでいます。授業を担当する講師は、小松市国際交流協会の５人の先生方にご協力いただきました。大きな地震とその被害に驚き、夜眠れない実習生もいると聞きますが、クラスに参加した受講者は、日本語を学ぶことが楽しい！と言っています。

能登の地域日本語教室が再開するまでは、まだ時間が必要と思われます。それまでオンライン日本語クラスなどを通じて、能登に暮らす外国人住民が少しでも心落ち着く場を提供したいと思っています。

～IFIEホームページが新しくなりました～

多言語での情報発信を充実するため、石川県国際交流協会のホームページを全面的にリニューアルしました。多くの方にとって、より親しみやすく、分かりやすいサイトとなるようデザインやメニューを工夫しています。

IFIEからのおしらせやイベント情報などを20言語で随時ご案内しておりますので、是非ご覧ください。

https://www.ifie.or.jp/

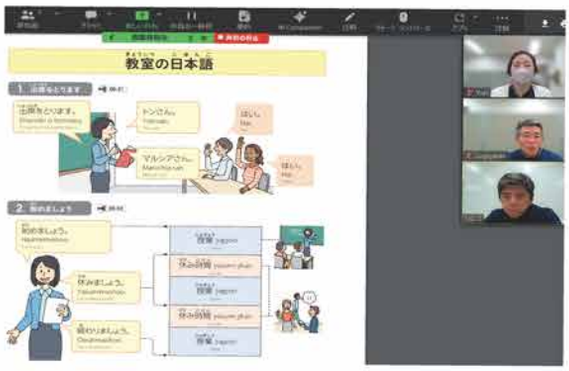
なお、広報誌「IFIE PLANET」の発行は今号を最終号として、今後は、ホームページで最新の情報をお伝えしていきます。

「いしかわオンラインにほんごクラス」

石川県内には、外国人住民で日本語を学ぶ気持ちがあっても、日本語教室の場所が遠くて通えない人や、仕事や家庭の事情で日本語教室の時間に通えない方々がいます。そこで、令和５年度から新たな試みとして、「いしかわオンラインにほんごクラス」がスタートしました。このクラスでは、インターネットを使って家や寮からパソコンの画面を通じて日本語学習の最初の一歩を提供しています。

「いしかわオンラインにほんごクラス」には、「入門クラス」と「初級クラス」があります。「入門クラス」は、はじめて日本語を学ぶ方が対象で、マンツーマンでの学習が基本です。「初級クラス」は、日本語の読み書きや挨拶などができるようになった方を対象とし、1クラス10名のグループクラスです。どちらのクラスも国際交流基金のオンライン教材『いろどり：生活の日本語』を使用し、全体で５回から１０回の授業を提供しています。

令和５年度は、ベトナム、中国、インドネシア、ブラジル、フィリピン、ザンビアなど11か国/地域から多岐にわたる人が参加されました。
また、居住地域も県内全域にまたがり、能登北部の穴水町や能登中部の七尾市、南加賀の能美市など、広範囲にわたって学習者が参加しています。



これまでの教室での授業と大きく異なり、家や寮にいながら学べることは、特に自転車が主な交通手段である技能実習生にとって、新しい学習方法となりました。
また、オンラインクラスの終了後には、受講者の居住地近くの日本語教室を紹介し、学習や交流が継続できるよう配慮しています。

※画像は「いろどり生活の日本語」より引用しています。

VOICE

日本語が分かるようになり、しゃべれるようになりました。

入門クラス終了
ネパール出身
Lさん

まずはこのクラスに参加でき感謝しています。先生にもありがとうと伝えたいです。色々なことをおしえてもらいました。前は、全然日本語がわからない私でも、このクラスを受けて日本語が分かるようになり、しゃべれるようになりました。仕事もやりやすくなりましたので、とても助かりました。

とにかく楽しい90分だったようで、本当によかったです。

オンラインで行うグループクラスは、教師にも学習者にも様々なチャレンジがあります。四苦八苦する学習者もいましたが、問題なく進めることができました。皆さん、話すことには慣れていますが、文法が正確ではありません。授業終了後に、難しくなかったかなど感想を聞きましたが、全員ニコニコで『楽しかった～』と言ってくれました。内容はともかく、とにかく楽しい90分だったようで本当によかったです。

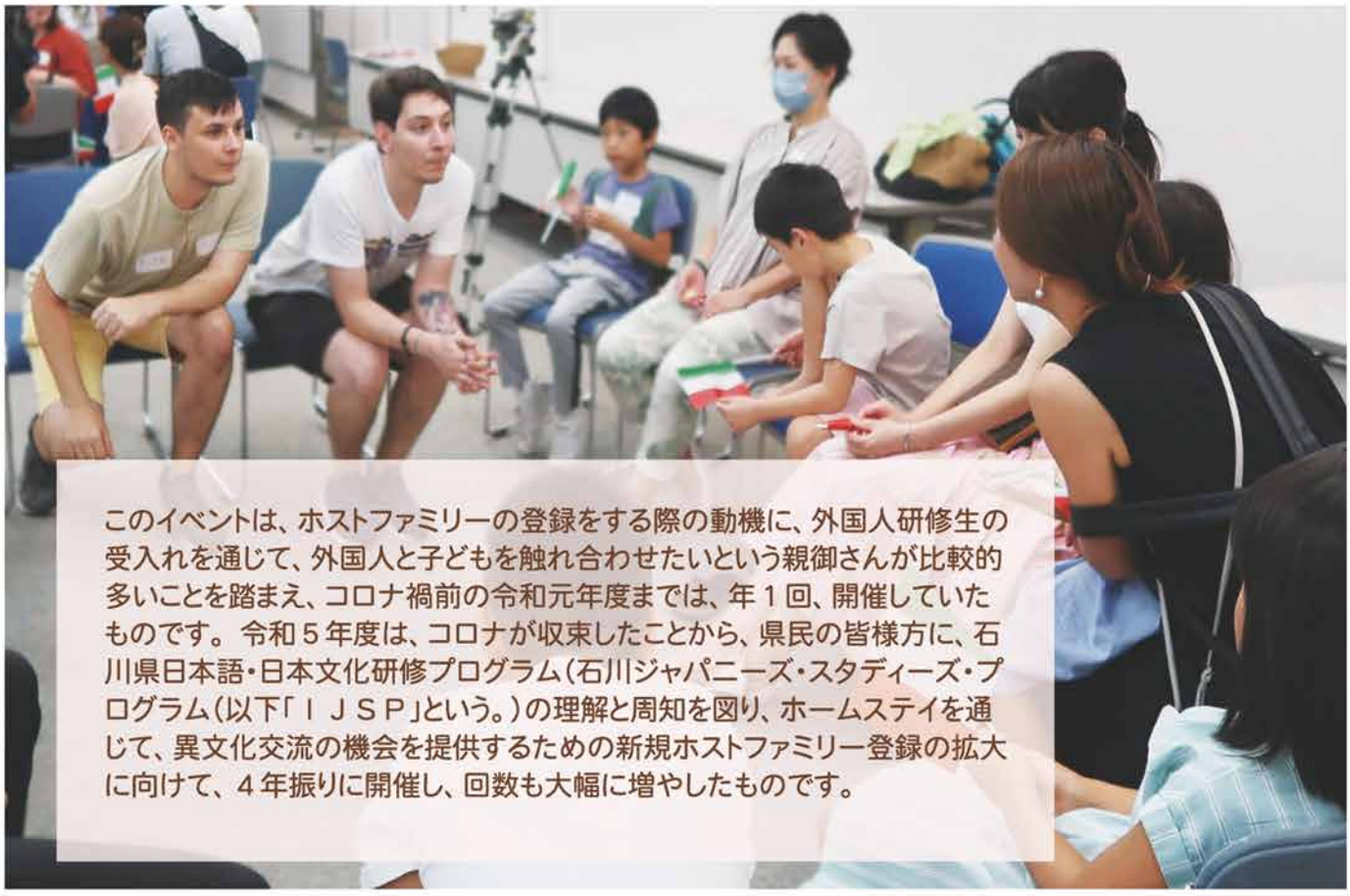
教　師

1年やってみての感想と今後の展望

現状では、オンラインクラスは定員を設け、日本語を学ぶ機会が得にくい方を優先的に受け入れています。
しかし、多くの受講希望があり、県内にはさまざまな理由で学習機会を得ることができない外国人住民が多くいることがわかりました。今後一層オンライン授業の重要性が高まると考えています。
石川県で暮らす外国人の方々が安全に安心して生活するための一歩として、日本語教育の機会の提供をこれからも続けていきたいと思います。

外国人のおにいさん・おねえさんと遊ぼう！

石川県日本語・日本文化研修センターでは、令和５年度に入って、
「外国人のおにいさん・おねえさんと遊ぼう!」ホストファミリー体験会を４回実施しました。



このイベントは、ホストファミリーの登録をする際の動機に、外国人研修生の受入れを通じて、外国人と子どもを触れ合わせたいという親御さんが比較的多いことを踏まえ、コロナ禍前の令和元年度までは、年１回、開催していたものです。 令和５年度は、コロナが収束したことから、県民の皆様方に、石川県日本語・日本文化研修プログラム（石川ジャパニーズ・スタディーズ・プログラム（以下「ＩＪＳＰ」という。）の理解と周知を図り、ホームステイを通じて、異文化交流の機会を提供するための新規ホストファミリー登録の拡大に向けて、４年振りに開催し、回数も大幅に増やしたものです。

第1回
トリノ大学

令和5年8月26日（土）、石川県国際交流センターで、IJSPに参加中のトリノ大学（イタリア）の日本語研修生8人、17家庭46人で開催しました。
まず、研修生から、イタリアの紹介があり、その後、子どもたちと研修生でゲームを行い、次にイタリアのクイズ、最後に参加者が、4つのグループに分かれてのフリートークを行い、お土産として、研修生が、イタリア国旗に子供たちの好きな言葉やメッセージを書いて渡すというものでした。
当日は、テレビ取材があり、参加者や研修生が、アナウンサーからインタビューされて興奮気味になるなど、大いに盛り上がりました。

第2回 マンスフィールド財団

石川県開催の国民文化祭の関連イベントとして実施した「いしかわ国際交流フェスタ」の期間中の令和5年10月22日(日)、石川県国際交流センターで開催しました。
令和5年の7月から8月にIJSPに参加したマンスフィールド財団(アメリカ)の日本語研修生2人 11家庭27人で実施しました。
イベントの内容は第１回と同じですが、研修生が社会人ということもあり、全体的に、第1回の小学校の中・低学年向けから、小学校・高学年から中学生向けのものとなりました。しかし、クイズやゲームでは、意外にも小学校の低学年の子が健闘し、みんなを驚かせる場面もありました。

第3・4回 オークランド大学

第3回は令和5年11月23日(木・祝)、金沢の北部エリアの津幡町福祉センターで、第４回は11月25日(土)、南部エリアの能美市ふるさと交流センターで、初めて金沢市以外での開催となりました。
いずれもIJSPに参加中のオークランド大学(ニュージーランド)の日本語研修生8人が参加し、多数のご応募により、津幡町では19家庭53人、能美市では14家庭43人で実施しました。

ホストファミリー体験会を終えて・・・

各回とも、応募が定員を超え、抽選で参加者を決定せざるを得ないものでした。４回のイベントを通じて、外国人と子どもを触れ合わせたいという親御さんが非常に多く、あらためて、その関心の高さに驚かされました。
当協会としては、今後もこのようなイベントで、県民の皆様に異文化交流の機会を提供するとともに、新規ホストファミリーの登録の拡大に繋げていきたいと考えております。

令和５年度石川県国際交流・協力功労者表彰(石川県知事表彰)が実施されました。

長年にわたり、石川県の国際化に顕著な功績があった方々をたたえ、去る令和5年11月21日、「石川県国際交流・協力功労者表彰(石川県知事表彰)」の表彰式が行われ、ホストファミリーからは5人の方が表彰されました。
まことにおめでとうございます。

受賞されたホストファミリーのみなさん(五十音順・敬称略)
金谷 久枝、川端 喜美恵、佐藤 千秋、田中 真理子、山本 京子

離任の挨拶

韓国国際交流員　金 柱英

こんにちは！日頃IFIE PLANETにご興味をもっていただく皆さま、たまたまこのページを開いてくださった方々にも今までの感謝の気持ちを伝えたいと思います！

2019年4月に石川県で国際交流員の仕事を始めてもう5年が経ちました。最初に来たときは日韓関係があまり良くなかったので、周りから心配の声もありましたが、民間交流に携わって友情を深めることに携わりたいと思い、今に至りました。

けっして短い時間ではありませんでしたが、歴代の先輩たちが言っていたように短く感じます。掛け替えのないこの5年間、すべての出来事を語るのは難しいですが、国際交流員としての経験は自分の視野を広げて新しいことに挑戦できる貴重な時間だったと思います。特に韓国語の講師で立つのはなかなか慣れず、緊張の連続でしたが、それを乗り越えることや受講生方々の成長が見えてやりがいが大きかったです。

それ以外にも姉妹交流地域の芸術団を招いて開いた伝統芸術講演や韓国の生活・文化をテーマにした出前講座、知事・副知事の訪韓に伴う通訳などを通して韓国に興味をもってくれる方々が増えて、また韓国

にも石川県をアピールする機会に携われてとても貴重な経験になりました。これからも自分の経験を活かせる仕事にチャレンジしていきたいと思います。

プライベートでは47都道府県に足を運んだことや新しい興味の発見や挑戦、人との出会い、祭りへの参加で何気ない素朴な日々を重ねることで生活に馴染んでいたと思います。石川県を離れることになったら懐かしむことが多いだろうと思うのは、特に週末の近江町市場の賑やかな雰囲気、四季の兼六園、毎日のように通り過ぎていた金沢駅、自慢の千里浜でのドライブ、家から眺めた夏の空を照りつけた夕日等々、まさに第2の故郷でした。

一生忘れられないこの5年間、出会った人や感じたすべてのことに感謝します。悩んでいたこともポジティブに捉えてこれからの人生を歩んでいきたいと思います。では、また愛してやまない石川県でお会いしましょう！

おさらば！

離任の挨拶

中国国際交流員　張于喆

任期満了にあたり、離任の挨拶をさせて頂きます。

光陰矢の如し、令和5年4月10日から1年間、私は国際交流員として石川県国際交流協会に勤務してまいりました。初めての石川県、当初、右も左もわからない私に親しく接して頂いた同僚の皆様に心から厚く感謝を申し上げます。皆様のお陰で、有意義な一年間を過ごすことができました。

さて、この1年を私なりに振り返りますと、公用文書、観光パンフレットの翻訳、友好都市からの訪問団の同行通訳、行政書士・法律相談の通訳、外国語講座・国際理解教室の開催、いしかわ国際交流フェスタの企画提案（ブース出展・ステージ企画）、ラジオ番組の出演等々、一つ一つの業務を、一期一会と考えて取り組んできました。

その中、最も印象に残ったのは5月から約半年間にかけて行った県民向けの中国語会話入門講座です。講座内容を自ら企画し、前期と後期に合わせて全20回実施しました。中国語初心者の方でも、簡単な会話、発音、文法などを覚えることが出来るようになりました。もちろん、他の翻訳・通訳の業務と重なっていると、短い時間での講座準備が大変でしたが、受講生から好評を頂いた時に、とても達成感がある仕事だと感じられました。また、講師として県内のこども園、小、中、高等学校を訪問し、中国文化や最新事情などの紹介を通じて、児童や生徒が中国への理解を深めることが出来るようになり、中国へ行ってみたいと思う生徒もいらっしゃいました。昨年の年末、新型コロナウイルスの影響で運休していた小松・上海便が3年9カ月ぶりに運航を再開しましたので、今後、中日両国において各分野の交流がますます発展することを期待しております。

皆様ご存じのように、新年早々、石川県の能登半島で地震が発生しました。自分が実際に住んでいた石川県ですので、災害のニュースを見るたびに、心が痛いです。石川県国際交流協会では、災害時に日本語が十分に理解出来ず、必要な情報を受け取ることができない外国人のために、多言語による相談窓口などの支援活動を実施しました。被災者の皆様が一日でも早く平穏な生活を取り戻されるよう、祈っております。

憧れていた国際交流事業を経験したことで、「国の交わりは民の友情にあり、民の友情は心と心のつながりにある」という言葉の意味をより深く理解出来るようになりました。国際交流員として、中日両国の民間交流を深め、これまで築いてきた友好関係を新たなステージに押し上げたいという自分の果たすべき使命感を強く感じました。

最後になりましたが、中日両国の発展と並びに江蘇省と石川県の益々の発展と、末永く交流が続きますことをお祈りいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。石川県でお世話になった皆様、この1年間本当に有難うございました。

JICA北陸からのお知らせ

石川からラオスの首都ビエンチャンへ

JICA海外協力隊員　**河村 美穂さん**
（職種：服飾／加賀市出身）

わたしはラオスの首都ビエンチャンにある青年同盟という組織の職業開発部門が運営する裁縫コースに服飾隊員として派遣されています。
授業があるときは同僚の教員のサポートをし、授業がないときはコースのカリキュラムを充実させるために、同僚の教員に対して日本流のパンツなどの製図から縫製を教えています。最終的には同僚が直接生徒に授業できることを目指しています。約4ヶ月かけてラオスの伝統衣装の仕立てが学べるので、活動を始めたころは、伝統衣装のシンやラオス流のブラウスの仕立てを生徒たちに混じって学びました。

プライベートでは平日休日問わず配属先の職員や生徒から食事やイベント・仏教行事などに連れ出してもらい、ラオスの文化を体験しています。
ビエンチャンは首都とは思えないほどのんびりとしていて、人も穏やかでとても過ごしやすいです。
残り8ヶ月ほどですが、のんびりとしたラオスでの生活を楽しみたいです。

提案募集！国際協力へのはじめの一歩

持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け、「世界の人びとのためのJICA基金」を活用した活動提案を募集します。
「開発途上国・地域に対する支援事業・活動を立ち上げたい」「これまでの支援事業・活動を拡大したい」という団体（NGOやNPO、任意団体）の応募を歓迎します。

2024年度「世界の人びとのためのJICA基金活用事業」

■対象となる事業

① 開発途上国・地域の人びとの貧困削減や生活改善・向上に貢献する事業

② 日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に関する事業

■応募締切：2024 年 4 月 25 日(木)17 時(日本時間)

詳しくはこちら

写真提供：ブルードット

写真提供：ブルードット

2023年度採択「フィリピン 南レイテ州のリマサワ町（島）の貧困層に対する家庭養鶏導入による副収入の確保と教育」
団体名：ブルードット（石川県）

独立行政法人 国際協力機構北陸センター(JICA 北陸)
〒920-0853 石川県金沢市本町 1-5-2 リファーレオフィス棟 4F
TEL 076-233-5931　JICA北陸